

子どもについて語ろう

ジョン・グラント[著]



ファミリーシリーズ vol.3

family series

let's talk about **CHILDREN** by John Grant



ファミリーシリーズvol.3

family series



子どもについて語ろう

ジョン・グラント[著]



Let's talk about
CHILDREN

by
John Grant

The John Ritchie family series

Publisher
Evangelical Publishers
Tokyo, Japan

目 次

1. 子どもたちは「主の賜物」	5
2. 最初に問うべきこと	7
3. 親の責任	9
4. 子どもと家庭	12
5. 子どもと父親	18
6. 子どもと母親	23
7. 立派な親の実例	28
8. 子どもの責任	33
9. おわりに	36

1. 子どもたちは「主の賜物」

クリスチャンは子どもの誕生を願って結婚します。子どもたちといっしょに、家族で楽しく過ごす日を待ち望んでいます。子どもを授からない場合もありますが、子どもはつくらないと決めて結婚するのは聖書の教えに反しています。主をあがめて結婚するつもりなら、決してそのようなことを考えてはいけません。

今では、子育てに関する本や雑誌がたくさん刊行されています。親は自分の子どもの成長を、生まれたときから大人になるまで見守ります。ですから、子育てを終えた人ならわかっていることですが、子どもが中学生や高校生になると、子どもへの接し方が大きく変わります。親に依存していた息子や娘が自立し始め、親とは違う考えを持つようになるかもしれません。未熟で経験に乏しいため、極端な意見を持つ可能性もあります。この小冊子では小学生までの子どもを扱いますが、ここで述べていることの大半は、どの年代の子どもにも当てはまるものです。

今日の社会では、子育てにかかる費用が算出されています。子どもが独立するまでの学費、食費、被服費、水道光熱費、レジャー費などの総額は、ふつうの家庭では捻出できない額に達しています。費用を見積もるのは、子どもを持つ余裕があるかどうかを検討するためですが、このようなやり方は重要な事実を見落としています。クリスチャンの夫婦に子どもを授けてくださる神は、その子に必要なものも備えてくださるのです。

子どもを授けてくださる神は、その子に必要なものも備えてくださる

「女性は出産後も仕事を続けるべきだ。生まれた子どもに親の人生の邪魔をされてはいけない」という人たちがいます。夫の収入だけで十分やっつけられる場合でも、子どもを預けて働きに出るべきだというのです。母親がどうしても働きに出なければならぬほど、追い詰められた状況に置かれたとしたら、その母親は心を痛めるでしょうが、主が必ずその埋め合わせをしてくださいます。けれども、夫の収入の範囲内で暮らすことができれば、子どもたちといっしょに過ごすことができるのですから、霊的な判断をしたいと思う夫婦であれば、むしろ生活費を切り詰めようとするでしょう。

私たちは、間違った常識と物質主義がはびこる社会に生きています。マスメディアもそれを扇動していて、子育てに専念する女性は、自分の潜在能力を発揮したいと思わない女性だ、と言わんばかりの報道です。けれども、クリスチャンはそのような圧力に屈してはいけません。夫の収入だけでは満足できない生き方を選ぶ女性は、子どもを育てるという最大の特権を失ってしまうのです。

最近では、子どもが親の苦勞の種であるかのように思われています。親が自由に生活できなくなるからです。子育てにかかる費用が、まるで人ごとのように計算されたり、妊娠・出産のせいで女性のキャリアが途絶えろと言われたりしています。けれども聖書は、まったく違う観点で子どもを扱っています。「子どもたちは主の賜物」(詩篇 127:3)と記されているとおりです。

子どもが生まれることと子どもの成長を見守ること

子どもが生まれることと子どもの成長を見守ることは、結婚生活における最大の恵みです。子どもが身体的・情緒的・知的に、そして靈的にも成長する時期は、両親も多くのことを学ぶべき時期なのです。聖書では、信者の靈的な成長が子どもの成長にたとえられています。観察力が鋭いクリスチャンなら、子どもの発達段階に関心を払うでしょう。そして、子育ての経験からも靈的な教訓を引き出すことができるでしょう。

子どもが成長する時期は、両親も多くのことを学ぶべき時期

このように、子どもの誕生は主の大いなる祝福です。それを経済的な負担とみなしたり、社会生活に不利益をもたらすものと考えたりしてはいけません。子どもが生まれると、親の生活リズムも変わりますが、やがて豊かな報酬がもたらされるのです。



表紙デザイン ◆ Logos Design 長尾 優

本文イラスト ◆ 山本ルツ

編集担当 ◆ 北嶋幹士

組版担当 ◆ 菅原真

子どもについて語ろう

2023年10月20日 初版第1刷発行 1000部

著者 ジョン・グラント

翻訳 伝道出版社編集部 監訳

印刷所 株式会社 シナノパブリッシング プレス

発行所 伝道出版社

〒183-0056 東京都府中市寿町 2-8-9

TEL 042-366-7760

FAX 042-366-7790

郵便振替 00140-9-27336

※落丁本・乱丁本は送料弊社負担にてお取り替えいたします。

ISBN978-4-901415-44-6

目次

1. 子どもたちは「主の賜物」
2. 最初に問うべきこと
3. 親の責任
4. 子どもと家庭
5. 子どもと父親
6. 子どもと母親
7. 立派な親の実例
8. 子どもの責任
9. おわりに

550円(税抜価格500円)

ISBN978-4-901415-44-6



伝道出版社

